

【きれいな水を守るために】

千葉県 翔凜中学校 二年 海老原 汐音

私は幼稚園生のときに、ザリガニを飼っていたことがあります。ザリガニ釣りのイベントで、近くの用水路からスルメを使って自分で釣り上げたザリガニです。チョッピールと名付けて半年くらい育てていましたが、母から逃がしてあげようと言われ、しぶしぶ用水路に戻しました。もう何年も前のことですが、チョッピールは私の大切なザリガニでした。

小学生になり歩いて通学を始めて、道路脇の側溝にザリガニがたくさん住んでいることに気が付きました。こんなところでも生きていけるんだ、と驚いたのを覚えています。チョッピールを飼っていた経験からザリガニが好きになっていたので、下校時にそこをのぞき込むことが日課になっていました。大きなザリガニや小さなザリガニ、たくさんザリガニがいました。

それから父の仕事の都合で五年以上別の場所に住んでいましたが、昨年また戻ってきました。あのザリガニたちを見ていた側溝も、また通路路になりました。ただ、前とは違うことがあります。側溝の水は以前よりも汚れ、濁っていたことです。ゴミもあちこちに浮かんでいました。ザリガニの姿を見つけることはできましたが、数が少なくなり、なんとなく元気がないように見えました。

側溝が以前より汚れていたことは、私にはショックな出来事でした。このままもつと汚れてしまったら、ザリガニも住めなくなってしまうのだらうと思います。できるならば、ずっとあそこで暮らす小さな生き物たちを見守っていききたいです。側溝の水が汚れている理由は、自分にも関係していると思います。

きれいな水を守るために具体的に自分ができるのか考え、調べてみました。

水質汚染の一番の原因は、生活排水だそうです。私の住んでいる地域では大規模な工場が多く、そういった工場からの工業廃水が最も影響を

与えているのではないかと思っていたため、意外でした。考えてみれば、工場からの排出物には厳しい規制が掛かっています。環境に配慮した企業であるかどうかは、常に私たち消費者の目にさらされています。でも、一般家庭はどうでしょう。誰が環境に優しい生活をしているかどうか、家の中のことは他者には分かりません。ただ、私たち一人一人のモラルに頼っている状況であることに気が付きました。私たちの意識次第なのです。

生活排水の中でも特に環境に負荷をかけているのが、台所からの排水です。特に油は処理が大変で、一ミリリットルの油を水に流した場合、魚が住めるほどのきれいなさに戻すためにはきれいな水三〇〇リットルが必要とのことでした。ほんの少しの油のために大量の水が必要になります。私の家では前から汚れた鍋や食器などは古布の切れ端でふき取ってから洗っていましたが、これは良い対策のようで安心しました。小さなことですが、これならば私にもずっと続けられます。油污れはそのまま洗わずにふき取ってから洗うこと、これからもしっかりと続けていこうと思います。

他にも、水質汚染を防ぐために私にもできそうなことがいくつか見つかりました。どれもちよつとしたことですが、この少しの意識の違いが大きな変化につながるのだと思います。私はきれいな川や海を未来に残したいです。チョッピールにも子孫がいたら、その子供たちが元気に暮らせる環境を残してあげたいと思うのです。水の生き物たちが豊かに暮らせる環境は、私たち人間にとっても良い環境でしょう。きれいな水を守るためにできることを、いつも心に留めておきたいです。